平成２１年８月９日
NPO 四季の森里山研究会
中島進市・宮下修一
伊藤恭造・青木克之

真夏の森に住む生き物たち

１．里山は生き物の住みか。

四季の森里山公園にはどんな生き物がいるのでしょうか。谷戸、池、小川、林縁、林、多様な空間と空間ごとの連続性が生き物の生活に役立っています。

２．動物はいつ活動しているの？

鳥類は日中活動型。日本に住むほとんどの哺乳類、鳥類でもフクロウの仲間やヨタカは夜間活動型。シカやカモシカは朝夕活動型夜。夜行性の動物たちは、夜盛んに動き回っています。しかし、一晩中活動するのではなく日没から夜半までと明け方近くが活発。

３．動物たちは森をどのように利用しているの？

動物たちは森の中で食べ物を手に入れます。森は、結婚相手を見つけて子孫を増やす場所。休憩や逃げ込む場所。森の中には動物の生活のすべてがあります。しかし、動物の種類によって生活する場所が分かれています。これを「住み分け」といいます。

４．セミ：ニイニイゼミ、ヒグラシ、クマゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ。クマゼミの分布の最前線は？

５．最も危険な生き物（スズメバチの怖さ）

６．清流にすむサワガニ

７．意外に臆病といわれるマムシ

８．近年は里地里山でも見られるキジバト（別名：ヤマバト）

まとめ：意外と森は平和ではありませんね。植物（生産者）を食べる昆虫（消費者）。草食昆虫を食べるトンボなどの肉食昆虫。それを食べるカエル。カエルを食べるヘビ。ヘビを食べるタヌキ。タヌキは死ぬと土の中にいる小さな土壌動物や菌類（分解者）で分解され、生産者の栄養となる。この様に、食う・食われるの関係を**「食物連鎖」**といいます。食べられて数が減っても心配ないのです。自然がより豊かで多様性があれば、食べられる方が食べる方より多く、全体のバランスは保たれています。このようにして、**「生態系ピラミッド」**が成立しているのです。大切なことは、複雑な**食物連鎖**と高くて大きな**生態系ピラミッド**を保つことなのです。

次回の自然観察会の予定：平成２１年９月１３日（日）１３時より　　**お疲れ様でした。**